

『瓶ヶ森の河童』公演を終えて

名無し 真壁宗英

初めに、今回5年ぶりに舞台に立つチャンスを与えて下さった皆さんはじめ、キャスト、スタッフ、主催者の方々、そして、観に来てくださった皆さんありがとうございました。

私にとって『瓶ヶ森の河童』はとても憧れのある作品なのでしょう。「出演しないか!?’というお話をいただいた時から嬉しくて、気が付いたら、会社を辞めトレーニングしている自分がありました(^_^;)

この作品は、17年前、劇団ふるさときゃらばんで初めて子どもが観れて、観劇した後親子の会話が増えるように！という願いを込めて作られた作品です。久しぶりに開いた私の台本には、“いばるな人間！”“本当の絶滅危惧種は人間かもしれない”という演出の故石塚さんのダメ出しが書いてありました。

最近、人間はもちろん、動物や植物に関するいたましいニュースを多く耳にします。名無しを演じる私にとってはとても悲しい事。そんなメッセージを伝えたい！という気持ちが、今回舞台に立ちたいと思った一番の理由だったのかも知れません。

私にとって五年ぶりに舞台に立てた事は、多くの皆さんの支えがあったからできた事です。忘れられない夏になりました。

皆さんに感謝！本当にありがとう!!

